

特集号

港区職員退職者会だより

港区職員退職者会
発行 井口良夫
〒105-8511
港区芝公園1-5-25
港区職労内
03-3578-2830

今年度、新たに加入頂いた方に任意でアンケートを募集しました。その結果、5名の方からお寄せ頂きました。ご協力ありがとうございます。

- ① 入区年と配属先の職場はどこでしたか。
- ② 入区当時の何か思い出されることはありますか。
- ③ 長い在职中には、「やりがいのあったこと」「楽しかったこと」「大変だったこと」「悔しかったこと」など様々のことがあったかと存じます。思いつくものをお聞かせください。仕事に関する事以外でも結構です。
- ④ これからやりたいと考えていることがあればお聞かせください。

回答者・落合 浩

- ① 昭和60年 高輪支所 庶務係
- ② 本庁舎が工事中で「札ノ辻」森ビルで入区式
- ③ 三原山噴火(大島)でスポセンへ宿泊勤務
- ④ 休養

回答者・匿名希望

- ① 芝保健所
- ② 高輪・台場・新橋を担当していた時。新橋に訪問(高齢者や精神ケースetc.)する依頼が多かった。すると1年後「新橋で訪問が多いのは、遊んでいるからでは?」と言われた事があった。当時、高齢者相談センターがなかった為となぜか新橋に90歳〜100歳のケースが多く居た。
- ③ 「やりがい」世田谷区が分割するのに合わせて、支所改革が行われた。全マニュアルやシステム改変まで大変だったがやりがいでもあった。

「悔しかったこと」年齢を経ると視野が弱ってくる・システム導入により数字が見えづらくなり、パフォーマンスが下がったこと。

右手に病気がみつかってOpenをした。麻痺で補装具がないと生活できなかった。入院中に職場に「Go」をすると……出勤するよう促された。日々の生活がやつとなのに……と上司からの言葉かけにショックを受けた。

④ 趣味の華道を極めていきたい(華道の師範免許あり)。免許を生かした教室を開催できたらと感じます。

旅行+登山(ハイキング)が楽しみ。

スポーツを趣味でやっていた。水泳以外の種目も取組みたい。(アイアンマンレース)

若い頃の油絵をやっていた。旅の写真を油絵で2枚程度完成できたらと思う。

実家のお店をネット用に展開できたらと感じる。

小笠原勤務経験あったため、再度訪問したい。(船舶免許でプサンに出航してみたい。)などなど人生沢山の楽しみに満ちてますね!!

回答者・高木 隆子

① 昭和55年度 麻布支所受付係でした。

② 麻布支所旧庁舎の地下室(廊下が土間だったような記憶が……)

夏に各支所の屋上で開催したビアパーティー

③ 入区2年目の窓口対応で一生懸命やればやるほどなぜか裏目に出て、区民に誤解されて怒らせてしまったことがあり、くあやしくて地下室で(当時、畳の部屋がありました)泣きました。唯一、仕事で泣いた苦い思い出です。

楽しかった仕事は図書館勤務時代、児童担当としてお話を運営したこと。子どもの絵本は夢があふれていて、企画をしながら自分も癒されていました。

④ 語学留学と本に関わる仕事をいつかできれば……と思います。

回答者・遠井 基樹

① 平成6年4月入区(目黒から交流転入)しました。区役所10階にあった住宅対策室の住宅計画担当が初任でした。

② 目黒区に比べて何ですが、区議会が区からなのと全課長が常任委員会に入るのには、区がちがうと、ここまで議会対応もちがうのかと思いました。(目黒区時代、港区から花角氏が目黒に

課長で来ておられ逆の立場で目黒区の委員会に行つてしまい、「お前は今日、総務企画委員会の審議に関係ないから自席待機！」と委員長にさらされていたのを思い出しました。」

③ 大変だったがやりがいのあったこと、区役所支所改革の初代の担当副参事だったこと。

防災のとき、課長として初めて区内在住、しかも東日本大震災や赤坂不発弾事件、防災対策基本条例を制定したことです。楽しかったことは、それこそ沢山ありましたが、ラスト、選管事務局長の時の都政新報への連載 48 回「もとのすけ」です。

④ 自分らしくのびのびゆつくりを実践していききたいです。特に四国八十八か所巡りはぜひチャレンジしてみたいと思います。先輩の皆さんいろいろ教えて下さい。

回答者・橋本 佳子

① 昭和 55 年 (1980 年) 麻布保健所総務課普及係

② 庁舎が 2 階建て木造で老朽化しており、廊下が歩くとギシギシというので、職員間では「ウグイス張り」と言っていました。

③ ・就職後に二部大学に通い始め、帰路で痴漢に遭遇や不審な男に後を付けられる等有り、護身のために始めた少林寺拳法で数年

前に六段を取り、現在も続けていることに、自分でも驚いています。

・介護予防総合センターの開設と新しいシステムを導入する仕事を引継ぎ、開設時に担当できたことは嬉しかったですが、残業続きの毎日、足がくるぶしがわからなくなるほどむくみ、ある日突然膝が曲がらなくなつてしまったことは、悲しかったです。

・父ががんで余命 1 年と宣告され、抗がん剤投与の入院時の面会や医師からの経過説明と治療方針の選択のために、残業が少なく時間休を取得することを、宣告とほぼ同時に異動した先の係長に信じてもらえなかったのか、突然父の入院先に面会に来て、国家公務員時代に人事担当課にいた父に、「お前が嘘をついて休んでいるのではないかと疑って、確かめるために来たんだろう」と、死期に近い父を悲しませてしまったことが、とても悲しかったし悔しかったです。

・担当した仕事で、かなりきつい事を言った相手に、数年後、「あなたに、あの時言ってもらつて良かった」と言われたことが、とても嬉しかったです。

④ ・治療を継続して、壊れた身体をできる限り治し、進行を遅らせたいと思います。

・好きな和服を「箆笥の肥やし」にせず、着る機会を増やしたいと思います。

・コロナ禍が収束し、飲食や旅行が気兼ねなく出来るようになったら、のんびりと旅行して美味しいものを食べに行きたいと思っています。